

卒業生総数:

23,641人

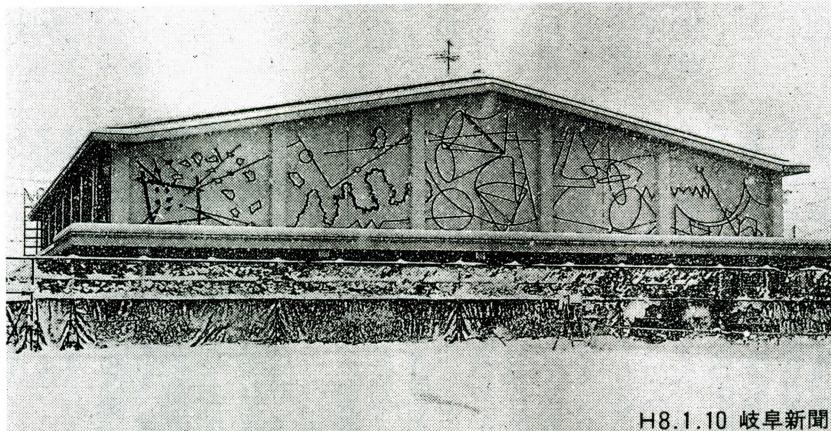
旧 中: 2,571人

高 女: 2,592人

高 校: 18,478人

同窓会だより

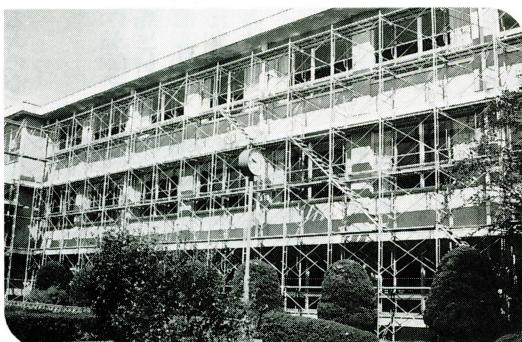
編集発行/岐阜県立本巣高等学校同窓会本部事務局
(〒501-04 岐阜県本巣郡糸貫町仏生寺・TEL <058> 324-1201)



H8.1.10 岐阜新聞



本巣高生徒製作



◆ 北舎大改修

皆様方には新しい平成八年を迎えられ、益々御健勝の段お慶び申し上げます。昨年平成七年は、戦後五十周年という記念すべき年で、戦前戦後のあの苦難の多かった頃を思い浮かべて、皆様それぞれの当時の立場における御労苦を私も思出しているところであります。終戦後我が国は、国民が一体となり苦難に苦難を重ねてこれに打勝つて、世界においても経済的に一、二等国と言われるまで成長してきました。しかし昨年は阪神大震災が起り、多大の被害をこうむり、またオウム真理教による全く考えられないような事件が起り、更に経済力も大きく低下して、戦後五十年の間に例を見ない大きな痛手に遭遇しました。

これは、世界の状勢も大きく変わってきた中で、我が国が今後一層世界に指導力を發揮していく上で、深い考證をもつて一日も早く処理していかねばならない問題であると思います。しかしこれらの事件に直接遭遇されました会員の皆様方には、誠にお氣の毒で心からお見舞いを申し上げる次第であります。

さて同窓会におきましては、昨年の本部総会において、平成十二年に本校八十周年を迎えるに当たり、その記念事業について一応の御承認を頂きました。特にその一環として同窓会館を建設することが承認され、その後必要な準備のため、三役会議・常任理事会等を重ねて來ました。そして一日も早くと思い募金趣意書を作成する準備にかかりましたところ、財政当局より長期間に亘る募金はできないとのことで平成九年から実施するよう要請がありました。その他実行委員の決定や設計等まだ細部に亘る各種の問題を決定しなければなりませんので、今後早速常任理事会や理事会を開催して検討することに致しております。

会員の皆様方にはその後の状況が如何になつているか、御心配をしていただいていることと存じますので、いずれ本年度総会において諸報告を致すことは勿論のこと、必要に応じて会員の皆様方にも細部についての御連絡を致す所存でありますので、その節は格別の御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上御報告を申し上げると共に、どうか本年も皆様方には御多幸で御健んでありますように祈念して御挨拶と致します。



ご

挨

拶

同窓会長

翠

正明

ノルマニヤ



學校長

溝下秀之助

○部活動について
　本校は「質美剛健、文武両道」という伝統のある校訓を旗印に、文化系・運動系とともに力強い活動を行っております。どの部も目標に向かって最大の努力をし、それぞれ実績を上げております。来年は更に期待がもてると思つております。

総会報告

一、創立八〇周年記念事業について
会務報告では、三月二六〇名の新規会員を
迎えたこと、一一〇名の参加者を得て盛大に
開催された関東支部総会、阪神大震災のため、
母校訪問ツアーや断念せざるを得なかつた苦
渋の関西支部、堅実な活動を続ける名古屋支
部の活動、五月末には、七五周年記念会員名
簿が発行されたことなどの報告がなされた。
総会終了後、監事の若原忠義氏（Ｓ一七年

「同窓会だより」が発刊されるに当たり
一言ごあいさつを申し上げます。

昨年は阪神大震災や地下鉄サリン事件などの暗いニュースが多くたたと思いますが、同窓会員の皆様はいかがお過しだったでしょうか。今年こそ、明るい年であつてほしいと願っています。

皆様方の母校である本巣高等学校は、地域社会の期待を担い、本校の教育目標に従い、職員、生徒が力を合わせて、當々と歴史を刻んでおります。

ここで本巣高等学校の近況を少し申し上げたいと思います。

昭和三十五年に建築された北舎の理科、家
庭科室の外壁や内装などが老朽化したため、

本年三月の竣工を目指して工事が行われています。竣工なった暁には、新築同様の美しい校舎に生まれ変わることになつております。

また、大改修事業に付随して、体育館の西の壁面にワンポイントとして、「創造の森」と題する大壁画を設置しました。この壁画は生徒のアイディアによるもので、太陽の動きが

皆様のご多幸をお祈りします。
(金田一京助)

總會報

同窓会事務局長 山本 昇

議案は次の通りである。

- 一、平成六年度事業並びに会務報告
- 一、平成六年度決算報告
- 一、会計監査報告
- 一、平成七年度事業並びに会務計画
- 一、平成七年度予算
- 一、創立五〇周年記念奨学金給付報告
- 一、役員補充について



同窓会だより

天地鳴動す

関西支部長

所敏勝

「グラグラグラ」とか、「ユラユラユラ」とかの生易さしいものでなく、或る時、突然に『ドッキヤーン!!』『グウラグウアラ』『バギバギア、バッキヤーン!!』――、

一月十七日、未明の出来事である。

昭和十六年生れの私は、戦中派と呼ばれていましたが、あの第二次世界大戦のすぐまじさは、全く記憶に有りません。しかし、阪神大震災の恐怖はまさに、それに匹敵するのではないであります。かと思う程の、一瞬の絶望感と、その後に尾を引く恐怖の連続でした。

『筆舌に表わしがたい……』という表現も、まさにこの事だと思つ程で、今、文章にしようといかに推敲しても、どうしても良い表現が出て来ません。

一月十六日の夜、遠来の客を神戸で夜遅くまでもてなし、宝塚の自宅にもどらず、神戸ポートピアホテルの二十三階に宿泊した翌早朝の出来事です。まさに、「九死に一生を得る」を実体験したわけですが、ホテルの有る、ポートアーランドは交通不能となり、陸の孤島と化して、家に帰ることも、会社に出る事も出来ず、唯ただ、食糧と、水の確保のみに二、三日終始した事しか記憶にない程空白の時間が流れました。電話回線も全く不通に近く、何十回となく掛けるなかに、どうにか家

族の無事と、会社業務を把握すると共に、神戸地区居住者の安否を調査すべく、指示するのが精一杯で、『なすすべもない』とはこのことかと、開き直った感覚がありました。

さて、例年同窓会に出席いただける皆様の安否も気になり、支部事務局として把握するなかに、神戸在住の皆様は、多大な被害を受けられた方々が大半で、中でも前支部長の山田千秋氏のご自宅は全壊し、ご子息の家へ避難して居られ、どこかお怪我をされたのか病院へも通院して居られるとの報告を聞き、心配をして居りましたが、その後のご連絡で、

さほどのことは無いとの事で、ホッ、としている次第ですが、副支部長の福富芳彦氏のご自宅も、避難こそして居られないが半壊以上の惨状との事――。

被災後何ヶ月も経つた今となつては、『頑張れ!! 神戸!!』と同じように、『頑張れ!! 被災同胞生!!』と、声を限りの応援を送りたいと思います。去る十月の土、日曜日に、一泊二日の行程で、『母校を尋ね、長良川で遊ぶ同窓会ツア』を企画致したのですが、心の傷は我々の想像以上に深かつたのか、それとも被災による、景気の低迷のためか、参加者が思いの外少なからず止むを得ず中止にいたしました。

然し、イチローが活躍した、オリックスブルーウェーブの優勝、そして、大阪でのエーベック開催により、関西の景気も徐々に上向き、被災地神戸には、電飾も鮮やかに、『ルミナリエ』が開通しました。大きな米俵を引っぱった『子年』のねずみと、明るい、前向きの関西人はもうそこまで来ています。

『頑張れ!! 関西!!』

『頑張れ!! 本巣高校同窓生!!』

生涯学習を目指して

—家庭科開放講座—

三十年ぶりの出会い

昭和四十年卒

家政部 今村敏美

遠山信義

平成七年七月～八月の毎土曜日午後（六日間）、本校の各家庭科実習室にて、県教育委員会主宰による『コミュニティ・カレッジ』『生活教養講座』が開講されました。この講座は、県民の生涯にわたる多様な学習要求に応じ、その機会を拡充するため、学校等がその施設及び機能を開放して実施されています。

本校では、手芸・料理・家庭介護の三分野

が開催された。手芸では日本の伝統的な刺

し子』とパナマの手芸『モラ』の技法の作品

製作。料理は、糸貫町の特産物である柿・ト

マトを使用した献立、加工食品の実習。家庭

介護では、家庭で出来るシーツ・寝衣の交換、

洗髪・足浴の実習で各分野二日間ずつ実施

ました。冷房のない教室での講義・実習であ

り受講生も大変でしたが、久しく振りに学ぶこ

との楽しさを体験できました。又の機会を

などの感想を頂き無事終了することができます。

さて、話を同窓会当日に戻しますが、当

日は一九名（過去最多の出席者数とのこ

との方が出席されましたけれども、三十

年ぶりの再会ということもあり、氏名札に

卒業アルバムの顔写真をコピーし貼付しま

した。その効果は絶大で、相手が誰なのか

を容易に知ることができたため、一気に三

十年前に遡り、当時の話し方で、思い出話

やお互いの近況報告に花を咲かせる輪が、

瞬く間に幾つもできました。しかし、この

懐かしく楽しい時間はあつという間に過ぎ

てしまい、またの機会を約束しながら惜別

することとなりました。

それにしても、それぞれ社会の中で責任ある立場で活躍しておられ同窓生として頼もしく思つと同時に、本巣高校の卒業生であることを誇りにし、社会に貢献せねばとの思いを強く感じました。

最後になりましたが、十九名の世話人の皆さんと母校並びに本同窓会の益々のご発展をご祈念申し上げ、文を結ばさせていた



〈開講式〉

〈家庭介護の
実習・食事
の介助〉

